

図書館を使いこなそう 教科書 p32-33

めあて

本の分類のしかたを理解し、目的の本を探せるようにしよう。

◎日本十進分類法 - 日本の図書館で広く使われている図書分類法

0 || 調べるための本

1 || ものの考え方や心についての本

2 || 昔のことやちいきの本

3 || 社会の仕組みの本

4 || 自然にかかる本

5 || 技術や機械の本

6 || いろいろな仕事の本

7 || 芸術やスポーツの本

8 || 言葉の本

9 || 文学の本

※基本的には一つの数字のみで分類されるわけではなく、三桁以上の数字で表されることが多い。最も大きな位の数を「類」(だから日本十進分類法)、そこから順に「綱」「目」・・・

と続く。

◎探し方

・馬の登場する物語が読みたいと思ったら・・・

物語 || 文学だから、一番大きな位が

9

・獣医について調べたいと思つたら・・・

獣医＝仕事に関係する話だから、一番大きな位が

6

・サッカーのルールをもつと詳しく知りたいと思つたら・・・

サッカー＝スポーツだから、一番大きな位が

7

まとめ

日本の図書館では、数字を使って、本の内容によって分類がされてある。自分の読みたい本を探すときには、ラベルを見て、自分の探したい本の内容と、ラベルの一番大きな位の数字を照らし合わせるとわかりやすい。

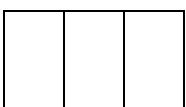
☆発展

自分のお気に入りの本の分類を調べよう

本の名前 「

」著者 ..

日本十進分類法で表すと



漢字の成り立ち 教科書 p34-35 漢字辞典があれば用意
めあて

漢字がどのように成り立つて いるか調べよう。

◎象形文字・・・ 目に見える物の形を、具体的に描いたもの

馬・山・門・火・手・川・羊・雨など

◎指示文字・・・ 目に見えない事がらを、しるしや記号を使って表したもの

上・下・三・一・二・中など

◎会意文字・・・ 漢字の意味を組み合わせたもの

鳴・信・林・明・森・休など

◎形成文字・・・ 音をあらわす部分と、意味をあらわす部分を組み合わせたもの

草・持・編・格・銅など

問題 教科書 p35 [1]

・音を表している部分を□で囲いましょう。

例) 河 → 河

銅

周

板

絵

際

☆発展 教科書 p35 [2]

・それぞれの漢字が、どの成り立ちでできているか調べましょう。

例) 魚 → 象形文字

犬 → 象形文字

末 → 指示文字

明 → 会意文字

清 → 形声文字